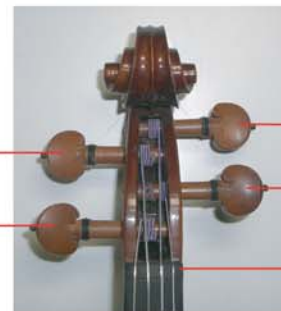
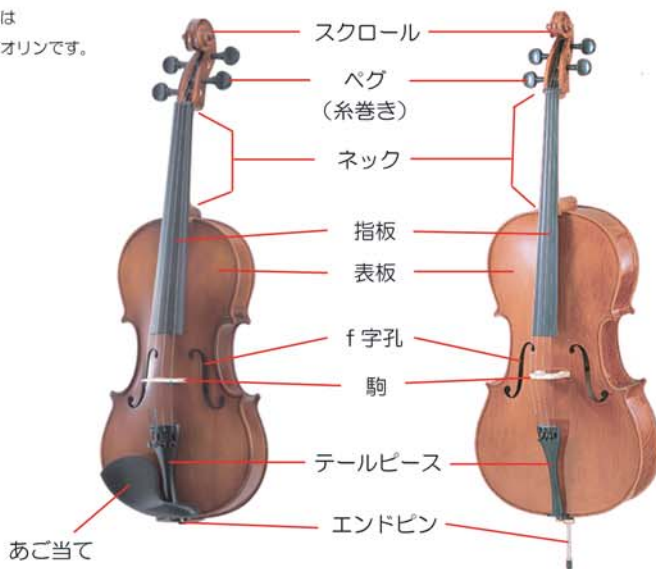
バイオリン
ビオラ
チェロ

取扱説明書

このたびは、本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。本製品をご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性質等を十分にご理解いただきますよう、お願い致します。

マックコーポレーション株式会社
〒451-0071 名古屋市西区鳥見町 1-18-1
TEL 052-528-5870　FAX 052-528-5878

＜楽器の各部の名称＞

※
チェロは、ご使用前にエンドピンを伸ばして適切な高さになるように調節してください。

＜弓・松ヤニ＞

弓

写真はバイオリンの弓（手もと側）です。

弓は、ご使用前にスクリューを回して毛を張ってください。

※ 毛の張りすぎにご注意ください。

弓を使用していないときは、スクリューを回して毛をゆるめてください。

弓の毛を素手でさわらないでください。音が出なくなったり、毛の劣化の原因となります。

買ったばかり、あるいは、毛替えしたばかりの弓は、そのままでは音が出ず、演奏するためには、弓の毛に松ヤニを塗る必要があります。

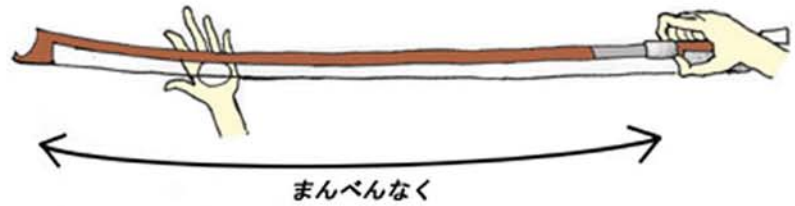
松ヤニ

〔松ヤニの塗り方〕

右手で弓、左手で松ヤニを持ちます。

弓の毛を松ヤニの上に乗せて、少し強めに何度も往復させて毛全体にまんべんなく松ヤニを擦り付けます。

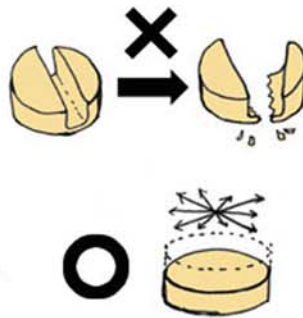
擦り付けた後は、毛に松ヤニの粉末が白く付着します。

強い力を加えすぎたり，弓が大きく左右にぶれたりしない限り、簡単に毛が切れることはありません。

はじめて松ヤニを塗るときは、しっかり時間をかけて塗り込んでください。松ヤニが足りないと弓が滑り、音が出にくくなります。

弓が滑ると感じはじめたところで松ヤニを補充してください。
２回目以降は付けすぎないようご注意ください。付けすぎると松ヤニの粉が楽器に付着して白く目立ちます。
また、雑音が目立つことがあります。

新品の松ヤニの表面は ツルツルしており、最初はなかなか塗ることができないことがあります。そのときは、表面に紙ヤスリや刃物で少しキズをつけると塗りやすくなります。

刃物を扱われる際は十分ご注意ください。

松ヤニの同じ部分だけを使い続けると、その部分だけすり減るため、溝ができてしまいます。
そうなると松ヤニが割れやすくなりますので、表面をまんべんなく使用してください。

演奏後に本体表板に付着した松ヤニは、表面に傷がつかないようにクロスなどでやさしく拭き取ってください。
松ヤニが付着したままにしておくと、こびりついて簡単におちなくなる場合があります。

＜調絃（チューニング）＞

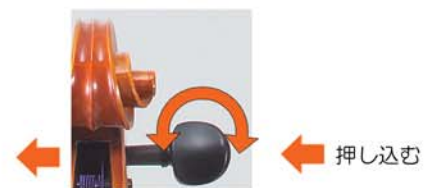
演奏前にペグを回して各絃の調絃を行ってください。

ペグを回すときは、一気に回さずに、少しずつ回して調絃してください。一気に回すと、絃が切れるなど思わぬ事故が起きるおそれがあります。

調絃時に絃がペグから外れた場合、次頁の「絃の交換」のやり方に従って、絃を巻きなおしてください。

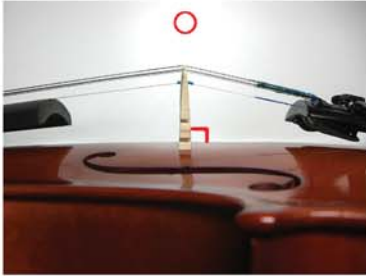
調絃時の各絃の音程については、下の表をご覧ください。

	第４絃	第３絃	第２絃	第１絃
バイオリン	G	D	A	E
ビオラ	C	G	D	A
チェロ	C	G	D	A

ペグは、押し込みながら回して調絃してください。押し込まないとペグが戻りやすくなり、音が狂う原因となります。

ペグの調子が悪い時は、ペグの軸に市販のペグコンポジションを適量塗って調整してください。
ただ、この処置は、あくまで応急処置で、回復しない場合は、専門家による調整をおすすめします。

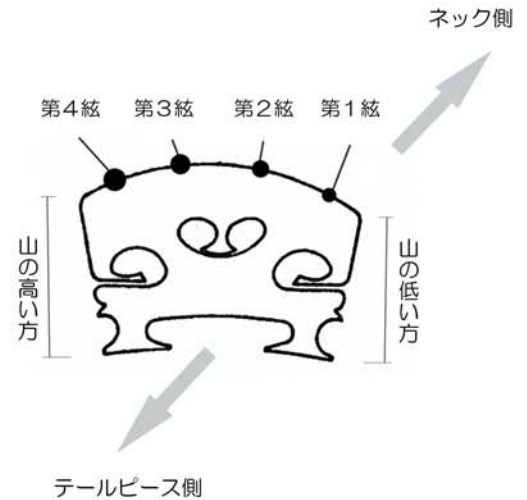
<駒の取り付け・調整>

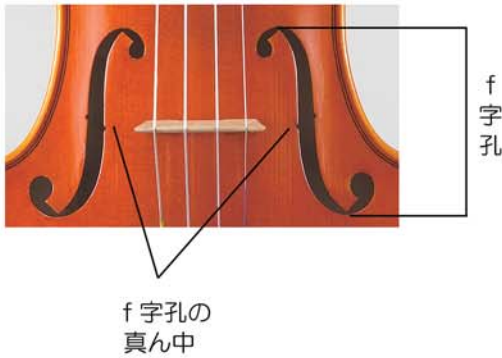
駒を取り付ける際や、調絃、絃の交換などで絃を張った後には、駒の傾きを確認してください。

駒の後ろの面が本体表板と垂直になるように

駒が前に傾いていたり駒の後ろが浮いている場合は、少し絃をゆるめ、駒を両手でしっかりと持ち、慎重に、角度を少しずつ調整します。

駒は折れやすいので、無理に起こしたり、ずらしたりしないようご注意ください。

すき間がないように

〔正しい駒の向き〕

※ 絃は山の低い方に第１絃を乗せます。

〔正しい駒の位置〕

駒は、絃をゆるめてから、左右のf字孔の真ん中を目安に、表板に対して垂直に立ててください。

駒を立てていない状態で楽器本体に衝撃が加わると、内部の魂柱が倒れることがあります。

〔駒の取り付け、調整の際のバイオリン、ビオラの持ち方〕

本体をお腹に当てて膝で挟んで動かないようしっかり固定します。

（あまり強く挟みすぎないようご注意ください。）

〔取り付け、調整の際の駒の持ち方〕

駒を両手でしっかりと持ちます。駒が前後に倒れないよう十分ご注意ください。

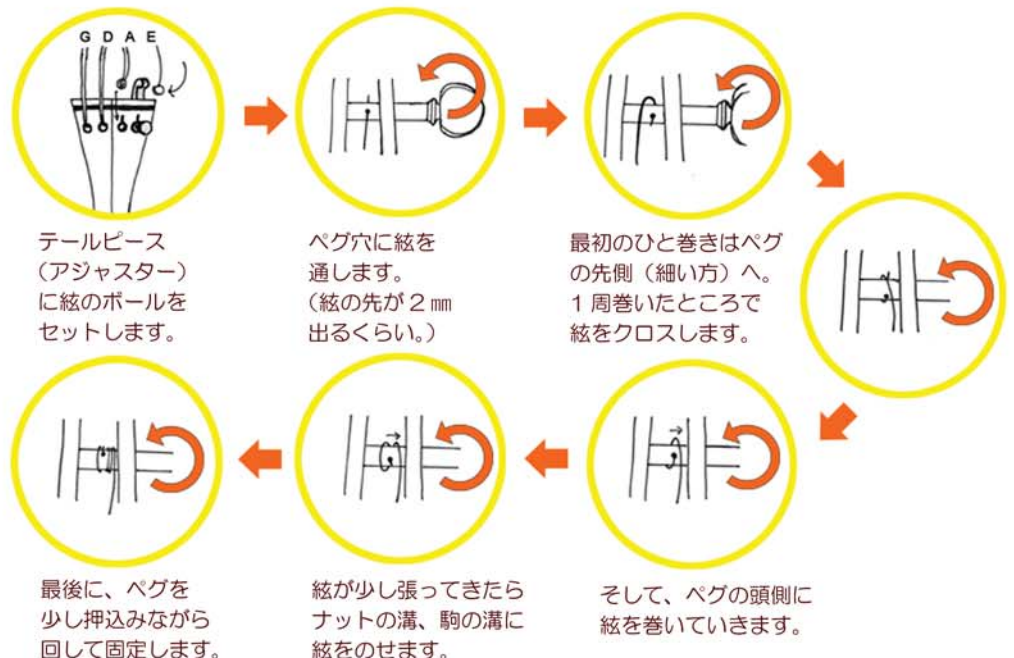
クロスなどを、駒の前後やテールピースの下に敷いておくと、事故や傷の予防になります。

<絃の交換>

イラストはバイオリンです。

絃が切れたときや、①巻き線がほつれてきた・錆びてきた、②音色が曇ってきた、③音程が取りづらくなってきたなど絃の交換時期が来たときは、絃を交換してください。

バイオリンの場合、使用頻度や状況によりますが、絃を張ってから３～６か月が交換の目安です。

絃を交換するときは、４本すべて交換する場合でも１本ずつ行ってください。１度にすべての絃を外すと魂柱が倒れるなど思わぬ事故の原因となります。

テールピース（アジャスター）に絃のボールをセットします。

ペグ穴に絃を通します。（絃の先が２㎜出るくらい。）

最初のひと巻きはペグの先側（細い方）へ。１周巻いたところで絃をクロスします。

そして、ペグの頭側に絃を巻いていきます。

絃が少し張ってきたらナットの溝、駒の溝に絃をのせます。

最後に、ペグを少し押込みながら回して固定します。